

『召しにふさわしい歩み①』

'22/10/16

聖書箇所：エペソ人への手紙 4 章 25-27 節（新約 p.378）

ここ何回かの、エペソ 4 章からの学びで、特に、20 節以降の学びを通して、私たちは、“救い”についてもう一度復習することができたと思います。まず救いとは、「イエス・キリストと個人的な関係を持つ」ということであります。つまり、イエス・キリストとは、一体何者なのか？イエス・キリストは真の神であられ、また、救い主でもあり、私たちが救うために、自ら十字架上でいのちを投げ出してくださった贖い主である、ということ私たちが信じ、受け入れることなのです。イエス様だけが真理であるということ、直接、神様から教えられて、私たち人間は救われるのです。

また、救いとは、「神にあって、新しい者とされる」ということも先週学びました。…つまり、救われる前の私たちが大きく変えられたということです。かつての私たちは、自らの欲望を神として、そのために生き、自分自身の栄光を求め、この地上のことしか頭に無いような者でした…。救いとは、そのような、かつての性質を脱ぎ捨てて…、新しく生まれ変わらされた、ということなのです。

そうして、そのような信仰者は、神様によって、日々、成長させられていきます。去年よりも今年、今日よりも明日というように…、私たちは心の中が新たにされ、日々、キリストに似た者へと変えられていくのです。

だから、私たちクリスチャンは、益々、神様にならった生き方をしていくのです。真の神様によって救われた者たちは皆、神様に従っていくことの素晴らしさを知ったはずですが、かつての古い衣を着て…、罪に罪を重ねていく人生の愚かさや虚しさを知ってしまったクリスチャンたちは、神様に従っていくという、新しい衣を着た人生を歩まずにはおられないのです。…そこまでが先週に学んだことです。

命題：召しにふさわしい歩みとは、どのようなものなのでしょうか？

そうして、いよいよ今日から、私たちは、エペソ 4:25 以降のみことばを学んでいきます。ここからは、神様によって召された者たちが歩んでいくべき歩みについて教えられてあります。ちょうど、エペソ 4:1 のみことばが教えてくれた、『…召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。』ということの、実践がここに記されてあるのです。初めに、今回のみことばであるエペソ 4:25-27 までを読ませていただきます。

25 ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのものだからです。

26 怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。

27 悪魔に機会を与えないようにしなさい。

I・偽りではなく、真実のみを語る！（25 節）

まず、第 1 の教えます。それは、「偽りではなく、真実のみを語りなさい！」ということです。私たちクリスチャンは、まず、自分たちの語る言葉をしっかりと吟味しなくてはならないのです…。

●ここで言われている、『偽り』とは？

ここ 25 節にある、『偽り』(ψεῦδος)という言葉は、単なる“嘘”だけを指す言葉ではありません…。嘘以外でも、あらゆる形のごまかしや、欺きなども意味する言葉なのです。…つまり、このみことばは、ただ単に、事実と違ったことを話すということだけを禁じているのではなく、その目的こそが重要で、そういったことを、このみことばは教えてくれているのです。言い換えれば、何らかの目的や意図をもって、人に真実以外のことを話すこと…、事実と違ったことを話したり、人を騙したりすることなどを指すと思われる。

ですから、例えば、私たちが人から道を尋ねられて…、その時は、それが正しいと思って、つい間違ったことを教えてしまった、という場合は、これに当てはまりません。しかし、それと全く同じ言葉を使ったとしても、その人が何らかの目的や意図をもって違ったことを言うなら、それこそ、ここで言われている、『偽り』なのです。つまり、そこに、何らかの目的があるからです。

じゃあ、果たして、皆さんは、いつ如何なる時にも真実だけを話しておられますか？完全に、損得抜きで…。例えば、ここで自分が真実を話すことによって、自分が悪く思われる…、あるいは、自分が何らかの被害をこうむるかも知れない…。それを分かっている、真実だけを正直に話すことができますか？…正直、そういったことは、私たち人間には難しいことです。だって、私たちは言うじゃないですか！…嘘も方便だって…。一体、私たちは、何を根拠に…、偽りを正当化するのでしょうか？この神様の前で！

ここ 25 節のみことばが、『あなたがたは偽りを捨て…』とあるように、かつての私たちは、『偽り』を言う者であったのです…。ピリピ 3:19 で、使徒パウロは、かつて、神様を拒んで生きている者たちのことを、こんな風に表現しています。『彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。』って…。①かつての私たちは、何に従っていましたか？⇒真の神様ではなく、自分自身の欲望だったとみことばは教えます。②また、救われる前の、私たちの栄光と言うか、その目標は所詮、愚にも付かないような自分の見栄やプライドだったのではないのでしょうか？③私たちの思いは、真の神様のことや天国のことだったのでしょうか？…いいえ、そうではなく、目先の地上のことだけだったのではないのでしょうか？…つまり、私たちが言うところの“嘘も方便”という、その見極めと言うか、損得の基準は、所詮、自分自身が基準だったのではないのでしょうか？

また、皆さんは、完全に“事実だけ”を話すことができますか？…例えば、そこに、「自分のことを良く見せよう！自分が悪く思われぬようにしよう！」なんていう思いが、ほんの少し、微塵も無いのでしょうか？…例えば、私たちの心に、ほんの少しでも芽生えてしまったような自分勝手な思い、醜い考え、淫らな気持ちなど…、そういったことを私たちは、包み隠さず、明らかにすることができるのでしょうか？…いえ！現実的には、難しいものがあるはずですよ。

皆さん、覚えてくださっていますか？⇒以前、マタイの福音書の、「山上の説教」と呼ばれるイエス様のメッセージから、“誓い”について学んだことがありました…。この当時、ユダヤ人たちの教師であり、模範でもあった律法学者やパリサイ人たちが、誓いを勝手に使い分けて…、真実を言ったり、言わなかったりしていたのです。

その理由は何だったのでしょうか？⇒神様のみこころや、神様の栄光などではなくて、結局は、自分たちの損得だったでしょ！…だから、イエス様は、マタイ 5:33-37 で、こう教えてくださったのです。『33 さらにまた、昔の人々に、『偽りの誓いを立ててはならない。あなたの誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。すなわち、天をさして誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。35 地をさして誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムをさして誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。36 あなたの頭をさして誓ってもいけません。あなたは、一本の髪の毛すら、白くも黒くもできないからです。37 だから、あなたがたは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。』って…。

⇒この当時のパリサイ人たちは、自分の話す言葉に、誓いを付けたり、付けなかったり…、あるいはまた、誓う対象に、自分勝手に優劣を付けて、これに誓ったら、絶対に果たさないといいないが、これに誓ったのなら、必ずしも誓いを果たさなくてもいい…、なんて言って、自分たちの話す言葉に、できるだけ責任を持

たないでおこうとしたのです。

でも、パウロが言うのは、「もう、そういったようなことは、かつての私たちの姿であって、もはや、それは過ぎ去った！もう、そのようないい加減な言動をしてはならない！」ということなのです。先週学んだように、もう、私たちは古い衣を脱ぎ捨てて…。新しい、キリストの衣を着せられたのです！ここで言われている、『偽りを捨て…』という表現には「アオリスト命令形」という文法(＝表現)が使われているのですが、この場合の「アオリスト」というのは、「過去のある時点で…」ということではなく、「今すぐ、偽りを捨てなさい！直ちに、そういったことをやめなさい！」というような教え…、命令なのです。

実は、こういったことによって、私たちが何を考え…、何を優先し、また、どういった方向を向いているかがある程度、分かってくるのではないのでしょうか？…もし、私たちが自分の損得や評価を気にして、真実を話せないのなら、私たちは、神様ではなく、恐らくは、神様以外の、どこか別の方向を向いてしまっていることに気付かされます。しかし、私たちが真実なる神様のみこころを求めて、例え、自分自身に不利益なことであっても、真実を話そうとするなら、そういったことによって、私たちがこの神様を信じ…、と同時に、この神様を愛し従っていかうとしていることが分かりますよね。

●ここで言われている、『隣人』とは？

では次に、ここ 25 節で言われている『隣人』とは誰のことか、考えていきましょう。…私たちは、どういった人々に対して、真実を話すべきなのでしょう？これに関しては、もう、皆さんは答えをご存知だと思います。…と言いますのも、ある時、イエス様は、律法の専門家からの、『では、私の隣人とは、だれのことですか。』(ルカ 10:29)という問いに対して、このような例えを話されましたよ…。

皆さんもよくご存知の、「良きサマリヤ人の例え」です。ルカ 10:30-37、『30 イエスは答えて言われた。』「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎ取り、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。31 たまたま、祭司がひとり、その道を下って来たが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。33 ところが、あるサマリヤ人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、34 近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。35 次の日、彼はデナリ二つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もつと費用がかかったら、私が帰りに払います。』36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」37 彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って同じようにしなさい。』」

⇒ここで、イエス様が教えてくださったように、隣人とは条件がありません…。実は、この当時のユダヤ人たちは、『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』(マタイ 5:43)と教えられていて…、自分たちと同じ民族は愛するが、外国人たちのことを愛そうとはしていなかったのです。でも、イエス様は、この例えでもって、「相手が、例え、敵対しているサマリヤ人であっても愛しなさい！」と教えてくださったのです。

それと同様に、私たちが真実を話す相手も、限定されるべきではありません。例え、相手が誰であろうと、私たちは、偽りなどではなく…、つまり、何らかの余計な目的をもって話すのではなく、真実のみを話すべきなのです。…そうでしょ？

ね、皆さん。十戒の第9番目の戒めは何でした？⇒出エジプト記 20:16、『あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。』でしたよね。「真実を話す」ということは、神様が初めから教えられていたような…、ごく基本的な、ごく当たり前のことなのです。

●クリスチャン同士 与える影響のゆえに…

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻ってください。その 25 節後半、『…私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのものだからです。』とあります。特に、私たちが何か話をする時、クリスチャン同士に与える影響を意識する必要があります。…だって、私たちクリスチャンは皆、共に、同じ神の家族であり…、皆、同じ1つの共同体、同じキリストの体を構成しているからです。…そうですよね？

そのことは考えてみれば、よく分かります…。もしも、目が自分の歩いている方向に何か危ないものを見付けた時に、それを、「どうせ、傷つくのは足だから…」と行って、知らせないなんてことがあります？…あるいは、もし何か、変な味のことを口にしたら…、味を感じる舌が、「どうせ、苦しい思いをするのは、胃や腸であって、自分ではない…」と考えたりしないじゃないですか！

どうしてかは明らかです。皆、同じ、1つの体であるからです。目も足も…、舌も胃腸も、皆、互いに1つの共同体なのです。自分以外の者を、何か別の者である、とは考えないのです。「あの人が傷付こうが、苦しもうが、悲しもうが、自分には関係ない…」そのように、私たちクリスチャンは決して考えないのです。だから、私たちは、基本、常に、真実だけを話すべきであり、お互いに相手を思いやって、お互いの徳を高め合うようなことを口にすべきなのです。

II・怒りをコントロールする！(26-27 節)

それに続いて、今日のみことばが教えてくれているのは、「怒りをコントロールしなさい！」ということです。今日のみことばには、こうありました。エペソ 4 章の 26-27 節です。

26 怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。

27 悪魔に機会を与えないようにしなさい。

●正しい怒りと間違った怒り？

ここで注意しないといけないことは、みことばは、必ずしも、すべての“怒り”を罪としているわけではないということです。「怒り、イコール、罪」ではないのです。…もし、そうなら、みことばは、「怒ってはなりません！」と言っているはず。そうでしょ！…しかし、みことばが禁じているのは、『怒っても、罪を犯してはなりません。…』ということでした。つまり、怒ることではなく、罪を犯すことを、みことばは禁じているのです。

「怒り、イコール、罪でない」ということは、聖書をよく見てみると明らかです。だって、まず、神様御自身が怒られているじゃないですか！そうでしょ？…また、過去学んだように、イエス様も時々、怒られたことがありました…。こういった話をする場合、いつも、イエス様が神殿で両替人の台などを倒されたという、あの「宮きよめ」の例を出しますので、今日のところは、マルコ 3:1-6 を開けてくださいます？『1 イエスはまた会堂に入られた。そこに片手のなえた人がいた。2 彼らは、イエスが安息日にその人を直すかどうか、じつと見ていた。イエスを訴えるためであった。3 イエスは手のなえたその人に「立って真ん中に出なさい」と言われた。4 それから彼らに、「安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。いのちを救うことなのか、それとも殺すことなのか」と言われた。彼らは黙っていた。5 イエスは怒って彼らを見回し、その心のかたくなのを嘆きながら、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。6 そこでパリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちといっしょになって、イエスをどのようにして葬り去ろうかと相談を始めた。』

⇒このみことばが教えてくれているように、イエス様が会堂に入られた時、そこに片手のなえた人がおりました…。そこに居たパリサイ人たちは、イエス様を訴えるために…、果たして、イエス様が安息日に人を癒されるのかどうかをじつと見ておりました…。明らかに、彼らには、何らかの意図がありましたでしょ？イエス様は、そんな卑怯な…、頑なな態度を取り続けるパリサイ人たちに怒られたのです。

このように、怒りには、正しい怒りと、間違った怒りとがあります。そういったことは、以前にも学んだことがあります。正しい怒りは、例えば…、「罪に対する怒り」です。先程見た、パリサイ人たちは、「自分たちは、みことばを知っている！」と豪語しながら…、神様の前に正しいことをしようとせず、自分の正しさばかりを主張するよう者たちでした…。だから、イエス様は怒られたのです！このように、聖書は、神様の前に正しい怒りもあることを教えてくれています。

しかし、実際のところ、私たちの怒りはどうでしょう？…果たして、普段、私たちが持っている怒りは、神様も喜んでくださるような「正しい怒り」でしょうか？それとも、間違った怒りでしょうか？…聖書のみことばが教えてくれているように、私たちは生まれつき、自己中心的な考えをしてしまいがちです…。ですから、その罪の性質が今も悪さをして、自分が期待通りの扱いを受けなかつたりすることで、すぐに不機嫌になったり、怒りを持ったりしてしまいます。…果たして、そういったことは神に喜ばれることでしょうか？

どうぞ、皆さん。1ペテロ 2:21-23 のみことばをご覧ください。ここに、イエス様の弟子であったペテロの証言があります。『21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。』⇒いかがでしょう？イエス様は、本来、すべての人間たちから称賛や賛美を受けられるべき御方でした。…しかし、実際は、その逆だったでしょ？正當に扱われなかつたのです。しかし、イエス様は、御自分が不当に扱われても、御怒りにはならなかつたのです…。

そのイエス様は、先程見た、「山上の説教」と呼ばれるメッセージの中で、こう教えてくださいました。マタイ 5:21-22、『21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければならない。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。』⇒このように、他人に対して…、特に、同じ主にある兄弟姉妹に対して、悪口を言うようなことを、イエス様は厳しく注意されています。

●自分の怒りを、早く解消しようとする 努力 が必要！

でもね、皆さん、例え、それが正しい怒りであろうと、あるいは、間違った怒りであろうと…、そういったものを長く持ち続けることを、みことばは禁じています。…と言いますのは、私たちが“激しい感情”を持っている時は、どうしても冷静な判断が難しく、罪を犯しやすいからです。だから、今日のみことばはここで、怒った時、罪を犯さないようにと教え…、その後で、『日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。…』と教えたのです。

『日が暮れるまで…』とは、「長い間」という意味です。当時、イスラエルの1日は、日没から日没まででしたので、これを今の日本に単純に当てはめると、「翌日まで…」となるでしょう…。つまり、「いつまでも憤ってはいけません！」と、みことばは教えるのです。

ちなみに、ここで用いられている、『憤(り)』(παροργισμός)というギリシヤ語の単語は、「憤慨といったような…、爆発的な怒りとか、憎しみ、決して赦そうとしない態度」などを示す言葉です。

じゃあ、具体的に私たち…、特に、主にある兄弟姉妹の間で、そういった問題があった時に、どのように対処すべきでしょう？⇒まず、聖書のみことばに沿って判断するならば…、できるだけ早くに解決すること

です。…正直、私もそうですが、私たちの多くは、嫌なことや…、あまり気が進まないこと、難しいことなどは先に延ばしてしまいがちです。皆さんも、そうじゃありません？…しかし、そうやって、問題を先に延ばしたとしても、根本的な解決には至りません。できるだけ、早く対処することが必要なのではないでしょうか？確かに、問題は1日では解決しないかも知れません。しかし、まず、私たちは、神様に祈っていくことはできますでしょ？…神様に自分自身の罪や過ちを告白して、自分を清めていただいて、それ以上の悪から守っていただくことはできます…。もし、逆の立場の場合なら、相手が悔い改めてくれるように祈ることもできます。また、必要であれば、その人の所に行き、自分の罪を告白して、お詫びすることだってできます。

あのイエス様も、先程読んだ直ぐ後のみことばで、そのような兄弟姉妹間での、問題を解決する方法について、直ぐに行動すべきことを教えてくれています。マタイ 5:23-25、『23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、24 供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。25 あなたを告訴する者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そうでないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役(したやく)に引き渡して、あなたはついに牢に入れられることになります。』とある通りです。

⇒ここで、イエス様は、『祭壇の上に供え物をささげようとしているとき』という風に教えてくださいました。「祭壇の上に供え物を捧げようとしている」ということは、神への礼拝です。ある意味、最も高い優先順位にあることですね？…でも、イエス様は、そんな、神様への礼拝よりも、和解の方を優先しなさい！ということをおっしゃったではありませんか？…それほど、和解というのは、神様の前に、優先順位の高いことなのです…。

また、イエス様は、『もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したら…』と教えてくださったでしょ？イエス様は、「もしも、兄弟姉妹間で、何か不仲の問題を感じたら、“それを感じた方”が行動を起こしなさい！」と教えてくださっています。…でも、私たち日本人は普通、そうは考えませんでしょ！「あいつが悪いのだから、あいつの方から、俺に謝って来るべきだ！」と考えます。でも、それは、聖書の教えではありませんか？…そういったことでも、私たちには、みことばに従うという責任…、神に従うという選択があるのです。

●『悪魔に 機会 を与える』とは？

どうぞ、もう1度、今日の聖書箇所に戻ってください。エペソ 4:27 をご覧いただくと、『悪魔に機会を与えないようにしなさい。』とあります。私たちが憤ったままにいるということは、「悪魔に対してチャンスを与えることになる」と言うのです。これは、一体、どういうことなのでしょう？

もう、敢えて…、聖書を開けるまでもないと思いますが、あのカインがそういったような状態になったでしょ。創世記 4:1-8 にこうあります。『1 人は、その妻イバを知った。彼女はみごもってカインを産み、「私は、【主】によってひとりの男子を得た」と言った。2 彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。3 ある時期になって、カインは、地の作物から【主】へのささげ物を持って来たが、4 アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のもを持って来た。【主】はアベルとそのささげ物とに目を留められた。5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。6 そこで、【主】は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。7 あなたが正しく行つたのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」8 しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。』

⇒このように、人類最初の殺人事件が、人類最初の兄弟間で、しかも、憤りから起こったということが、聖書の中にははっきりと記されています。…思えば、今も、多くの事件などが、そういったような「憤りから」

起こっているのではないのでしょうか？…そのように、大きな事件になってから反省することは、誰にでもできます。でも、私たちは、少しでも早く、罪や問題から立ち返って…、悪魔にチャンスを与えるべきではないのです。

実は、今日のみことばの 27 節で、『悪魔』(διάβολος)という言葉が使われていますが、この言葉は、元々、「中傷する者」という意味の言葉でありました…。悪魔、別名、サタンは、私たちの罪を見つけては、それを神様に訴え、中傷するのです。…ちょうど、旧約聖書に出てくる、あの義人ヨブに対して、したのと同じように…。サタンは、私たち人間が…、特に、クリスチャンたちが罪を犯す時に喜ぶのです…。黙示録 12:10 には、このようなみことばが記されています。『そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの權威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。』

⇒このみことばも教えてくれているように、私たちクリスチャンが罪を犯すと、サタンは喜び勇んで、私たちの罪を神様の前で訴えます。「ほら！この者は、こんな罪を犯しましたよ！コイツは、まだ、こんなに罪深いじゃないですか！」って…。しかし、感謝なことは、そこには、私たちの救い主であられるイエス様も居てくださるのです…。1ヨハネ 2:1 のみことばはこう教えます、『私の子どもたち。私がいじめられることを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。』…イエス様は、今も、罪深い私たちのことを愛し…、私たちのために労し、私たちのことを弁護してくださっているのです。

<励ましの言葉>

こういうような話を聞くと、私たちは、「じゃあ、安心して罪を犯そう！」とはならないはずですが。逆に、「一体、どうしたら、私は罪を犯さなくなるのだろうか？」と考えるはずですが。…そう、この1ヨハネのみことばも教えてくれているでしょ？

もし、ここにおられる皆さんが、そのように思ってくださいなら、方法は2つです。…まず、1つは、あなたが救われることです。まず、聖書が教える真唯一の神様の前に、自分の罪を認めて、それを悔い改めて、自分の罪を赦すために、自分の身代わりとなって、自ら十字架に磔になってくださったイエス様を、あなたの神、救い主として信じ救われることです。…そうすることによってのみ、あなたは、神様の助けによって、清くなっていくことができます。

そして、もう1つは、その神様にすべてをお委ねしていくことです。どうぞ、最後に、詩篇 4:3-5 をご覧ください。『3 知れ。【主】は、ご自分の聖徒を特別に扱われるのだ。私が呼ぶとき、【主】は聞いてくださる。4 恐れおののけ。そして罪を犯すな。床(とこ)の上で自分の心に語り、静まれ。セラ 5 義のいけにえをささげ、【主】に抛り頼め。』⇒ここにある『セラ』という言葉は、音楽的な「休止符」のようなものと考えられていますが、この詩篇の作者は、私たちに「祈るべきこと」を教えてくれています。「しっかりと、静まって…、落ち着いて座って、祈りなさい！そして、神様の前に正しいことをしていながら、この主なる神様を信頼して、主に任せていきなさい。」と教えるのです。…皆さんも、神様への祈りを通して、自分自身の激しい感情を抑えよう！抑えていただく！としたことがありますでしょ？神様が、皆さんのそういった思いを助けてくださるのです…。

今日、私たちは、①偽りではなく、真実のみを語るということ、②怒りをコントロールするという、一般の社会でも、ごく基本的なことを学びましたが…、そういったことであっても、実は、私たちは真の神様の、全能なる助けが必要なのです…。

だって、皆さん…。私たちは、いつもいつも、真実を話してはいないからです。どこかで、自分を守ろうとして…、自分を少しでもよく見せようとしてしまいました…。…私たちが、完全に真実を語るためには、まず、自分自身の心や行ないが聖く、正しいものとされる必要があるのです。…でも、現実には、そうじゃないでしょ？

また、怒りにおいても、そうです。例えば、皆さんは、不意に起こってしまうような怒りに対して、どのように対処しておられます？それを意識的に持ち続けてはおられません？…もし、そうなら、私たちは覚えなさいといけません。「不意に持ってしまったような怒りは、どうしようもできなくても…、それを持ち続けるということは、私自身がそれを選んでるからだ！」って…。

また、皆さんがお持ちになる怒りは、果たして、神様の前に正しいものでしょうか？神様が望んでおられるのは…、神様が喜んでくださるのは、私たちが怒りをコントロールできるようになることです。…今日見た、あのカインのように、憤りを抑えることをせず…、また、神様のお言葉にも耳を傾けようとせず…、益々、罪の深みに陥ってしまうようなことを、神は決して望んでおられません。カインにとってのターニングポイントは、神様の忠告に対して、耳を傾けようとするかしなかったかです。もしも、カインがあの時、神様からのアドバイスに耳を傾けて、自分の罪を正しく悔い改めていけば、間違いなく、カインの人生は大きく変わったはずですよ。

どうか、今日このメッセージを聞いてくださった皆さんには、どうぞ、神様からの御助けをいただく者となつていただきたいと、心から願います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。